

西之島の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

11月26日、海上保安庁と共に行った上空からの観測では、新島の2ヶ所の火口から東側及び南側に溶岩が流下しているのを確認しました。
 今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島付近では警戒して下さい。
 平成25年11月20日に火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報を発表しています。

○ 活動概況

<11月26日の状況>

海上保安庁と共に行った上空からの観測では、新島の東側へ流れた溶岩流はさらに東に伸び、長さ約50mに達していました（図2、図3）。また、海上保安庁による熱赤外画像の観測では、第1、第2火口とは別に溶岩流の火口が2ヶ所あり、それぞれの噴出口から溶岩流が東と南方向に向けて流下しているのを確認しました。

新島の南側には大量の水蒸気が南東方向に約800m、高さは約30mで海面に接した状態で立ち上がっていました（図3）。水蒸気のため海岸線付近は確認できませんでしたが、東側へ流下した溶岩流とは別の溶岩流が海に流れ込んでいる可能性があります。

第1及び第2火口では、青白色の火山ガスが噴出していました。噴火は約4分以下の間隔で間欠的または連続的に繰り返しており、黒色の噴煙が数十m噴き上がることもありました。

新島の南側から茶褐色の変色水が、南東方向へ約500m、幅約100mで流れていました。また、別の変色水が、西之島と新島の間から南西方向に約600m、南東方向に約400mで幅30～50mで帯状に流れていました（図4）。



図1 西之島 噴火地点の概位（+印付近）及び撮影方向

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、海上保安庁のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

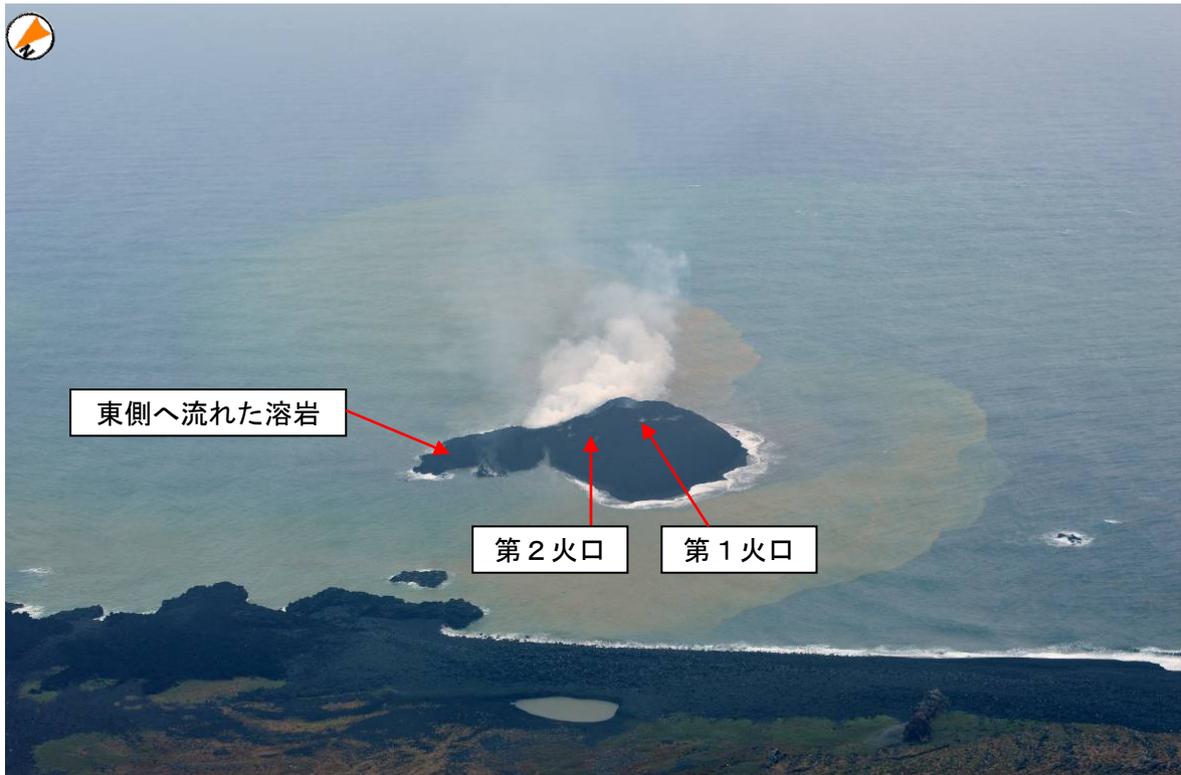


図2 西之島 新島の状況 (11月26日13:56; 北西方向から撮影) (海上保安庁提供)
新島の東側へ流れた溶岩流はさらに東に伸び、長さ約50mに達していました。



図3 西之島 新島の状況 (11月26日13:59; 北東方向から撮影) (海上保安庁提供)
新島の南側には大量の水蒸気が立ち上がっていました。



図 4 西之島 新島と変色水の状況（11 月 26 日 14:36；西方向から気象庁撮影）
新島の南側及び西之島と新島の間から、茶褐色の変色水が流れていました。